

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	寝具洗濯乾燥消毒サービス事業			事業コード	0421
所属コード	066500	課等名	長寿社会課	係名	生きがい推進係
課長名	藤澤 忠範	担当者名	小川文子	内線番号	3562
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	一般会計 3 款 1 項 3 目 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業 (005-08)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 50 年度
根拠法令等	盛岡市寝具類洗濯乾燥消毒サービス事業実施要綱			

(2) 事務事業の概要

寝具類の衛生管理が困難な寝たきり高齢者等の常用に係る寝具類の洗濯乾燥消毒をすることで、寝具類の衛生保持を図り、寝たきり高齢者の福祉の増進に資する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

寝たきり又はひとり暮らし高齢者の常用に係る寝具類の洗濯、消毒乾燥を行うことを目的に、昭和 50 年 7 月より事業が開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 17 年度から国の補助がなくなり、市の単独事業となった。平成 18 年度に要項改正を行い、利用者を要介護 3 以上の方にするなど対象者を明確にした。年々高まる高齢化や核家族化の進行により、サービス利用のニーズが高い事業である。

しかしながら、利用実数は伸びず同じ人が繰り返し利用している状況にあり、事業の周知を行う必要があったため、平成 25 年度より市広報で広く周知したところ、新規利用者が増えてきている。利用点数についても、多くの方に利用いただけるよう 1 人 4 点（掛・敷・毛布・枕）までとし一人あたりの経費を抑えている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

寝具の衛生管理が困難なおおむね 65 歳以上で介護度 3 以上の寝たきり高齢者等。

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込	26 年度 実績
A 在宅の独居または高齢者世帯の人数	人	27,576	28,844	30,411	-	32,243
B 利用希望者実数	人	35	26	18	110	28
C ねたきりの高齢者数(地域福祉課統計)	人	122	132	111	-	109

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

年 3 回（6・10・2 月），寝具類の 1 回 1 人あたりの数を 3～4 点とし，委託事業者による寝具の洗濯乾燥消毒を行った。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 洗濯乾燥消毒した寝具の数	点	203	166	91	300	83
B 洗濯乾燥消毒にかかった費用	円	362,694	317,995	169,674	500,000	163,511
C のべ利用者数	人	75	55	28	100	28

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

安全かつ衛生的に在宅生活を送ることができる。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 利用者実数/対象者数(在宅寝たきり者数)×100	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	5.7	19.7	16.2	-	25.7
B 年間利用点数/利用者数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	点	2.8	3.0	3.3	3.0	3.9
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	371	318	318	506	164
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	371	318	318	506	164
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	80	80	60	80	60
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	320	320	320	320	240
計	トータルコスト A+B	千円	691	638	558	826	404
備考 ※平成 25 年度は 2 回実施。3 回目事業費は流用にて生きがい通所支援事業費となる。							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：当事業により衛生的な在宅生活を送るための支援をすることは、高齢者の健康維持に効果があり、意図に結びつく。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：在宅における寝具類の衛生保持が困難な高齢者が増加しており、特に独居や寝たきり高齢者の在宅生活を支援することは、市の役割である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：平成 18 年度に対象者の見直しを行い、平成 19 年度より新たな対象範囲で実施。対象者として介護度は軽度だが認知症による排泄過誤による寝具類の汚染がみられ、利用を希望する相談が増えたことから、平成 27 年度要綱を改正し利用対象者とした。

④ 廃止・休止の影響

影響は少ない。

その内容：寝たきり高齢者等の日常生活の要である寝具が不衛生になると、感染症や皮膚病を引き起こす可能性があり、在宅生活の維持に支障が生じるため実施してきた事業である。ここ数年は利用実績も減少し限られた方が利用していたことから、利用点数を 4 点とし、市広報で周知するなど新規の利用増につながるようになっている。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上の余地がある

理由：平成 27 年度対象者に認知症による排泄過誤のある方を加えた。新規利用者を増やすため広報などで事業を周知していく必要がある。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平、公正である。

理由：申請によって対応しており、対象者選考の際には、身体的状況の他、経済的理由も考慮しているため受益負担はなじまない。

(4) 効率性評価

削減できない。

理由：事業費は委託料であり現行事業を続ける上では人件費も無いため削減できない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

高齢者人口の増加に伴い、対象者の増加も見込まれるが、この事業は現在一般会計で実施されており、対象者が増えると費用の捻出が困難な事業である。本人の衛生保持や介護者負担の観点からも介護や福祉サービスの事業の補助事業対象となれるか、継続して検討していく必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

委託実施可能事業者は、平成 26 年度市内 1 事業所のみで、訪問による寝具類の回収が困難な事業所が多い状況である。事業内容の見直しも行い、委託業者の負担を軽減し実施していくことが良いのか見当していた。平成 27 年度は受託可能事業者 3 者となり競争入札となったことから、委託料の単価を下げる事ができた。

事業周知については市広報や介護保険課主催のケアマネ研修の機会を活用し、事業の周知を図り対象者のニーズを把握していきたい。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

高齢者の健康維持や安定した日常生活を送るためには、必要かつ有効な事業であり、今後も継続して取り組む必要がある。

事業継続のため、財源や事業内容についての検討を行うとともに、周知を図っていく。

